Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 23第46号
2024年（令和六年） 3月8日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

2/22～2/28のNYMEX・WTI先物市場は76.49～78.87ドルの範囲で推移した。

2月29日は、シカゴ購買協会消費指数（PMI）が市場予想を下回ったことから、景気後退感が高まり、続落した。ただ、パレスチナ・紅海情勢の緊張が底値を支えた。4月物終値は前日比0.28ドル安の78.26ドル。

週末3月1日は、OPECプラスの主要国の自主追加減産が延長されるとの観測が高まり、また、パレスチナのガザ北部でイスラエル軍が民間人に発砲、100人以上が死亡し、さらに緊張が高まったことから、3日ぶりに反発した。4月物終値は前日比1.71ドル高の79.97ドル。

週明け4日は、サウジ国営通信が、OPECプラス主要国による3月末終了予定の自主追加減産の6月末までの延長を伝え、一時値上がりしたものの、その後、利益確定売りに押され、反落した。減産延長は織り込み済みとの観測、米国の足元の石油需要は減退しているとの観測もあった。4月物終値は前日比1.23ドル安の78.74ドル。

5日は、この日の中国全国人民代表者会議で本年の成長目標が5%前後と据え置かれ、達成は容易ではないと発表、中国の景気停滞が再確認され、続落した。米国株式の軟化も値下がり要因。4月物終値は前日比0.59ドル安の78.15ドル。

6日は、米国連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が、本年のいずれかの時期に利下げが適切と発言、また、1日時点の米国石油在庫統計が、原油在庫の積み増しが市場予想を下回り、製品在庫も予想を上回る取り崩しとなり、景気後退と需給緩和の懸念が遠のき、3営業日ぶりに反発した。4月物終値は前日比0.98ドル高の79.13ドル。

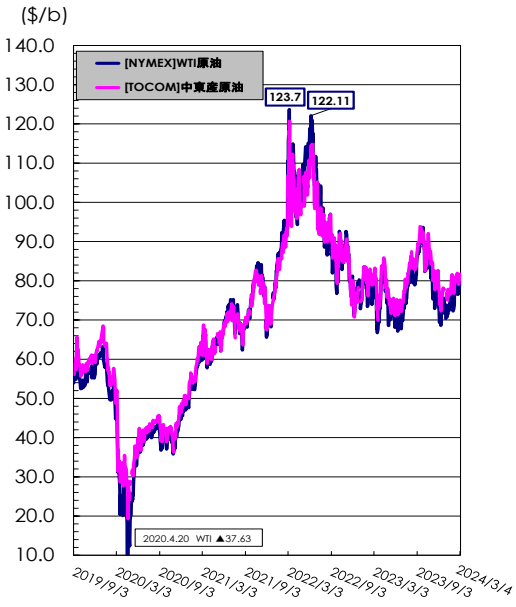
中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は、2月22日～28日の間、80.40～81.20ドルの範囲で推移。2月29日80.80ドル、3月1日81.90ドル、4日82.60ドル、5日81.90ドル、6日81.80ドル。

対ドル為替レート（TTM）は、2月22日～28日の間の間、150.36～150.66円の範囲で推移。2月29日150.67円、3月1日150.31円、4日150.08円、5日150.42円、6日150.05円。

そのような中で、3月4日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油は5円の値下がり（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.5円となった。

3月7日～13日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.7円（補助金がない場合の次週予想価格196.5円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は11.5円）となった。

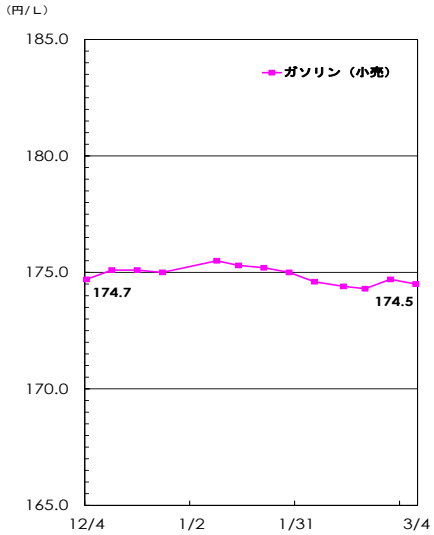
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/25 ～ 3/2	2,764	▼ -1	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	76.9	➡ 0.0	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	3/2	10,556	▼ -1	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	3/4	81.76	▲ 2.72	▼ -0.4
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/4	78.74	▲ 1.16	▼ -1.7
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	2月上旬	84.13	▼ -0.52	▼ -3.75
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	78,118	▲ 608	▲ 6,069
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	147.63	▼ -2.04	▼ -17.28
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	3/4	151.08	▲ 0.28	▼ -14.16



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/25 ～ 3/2	783	▼ -170	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	814	▲ 14	▼ –
	輸出		〃	142	▼ -9	▲ –
	在庫		3/2	1,629	▼ -174	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/27 ～ 3/4	78.8	▲ 0.1	▲ 6.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/27 ～ 3/4	81.0	➡ 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部)	3/4	79.0	➡ 0.0	▲ 5.4
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/4	174.5	▼ -0.2	▲ 7.1

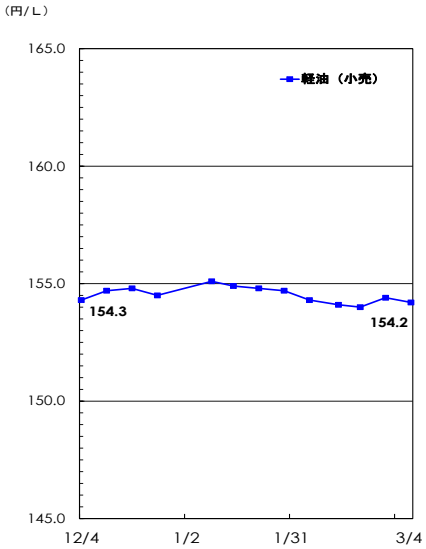
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

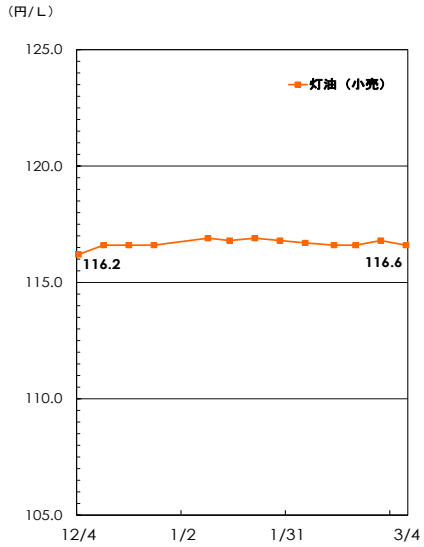
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/25 ～ 3/2	666	▼ -63	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	637	▲ 104	▼ –
	輸出		〃	26	▼ -145	▼ –
	在庫		3/2	1,580	▲ 3	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/27 ～ 3/4	79.3	▼ -0.9	▲ 4.7
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/27 ～ 3/4	83.0	▲ 0.6	▲ 6.6
		(TOCOM/中部)	3/4	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/4	154.2	▼ -0.2	▲ 6.6

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		2/25 ～ 3/2	324	▲ 108	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	471	▲ 325	▲ –
	輸出		〃	0	➡ 0	▼ –
	在庫		3/2	1,526	▼ -147	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	2/27 ～ 3/4	80.4	▼ -0.5	▲ 5.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/27 ～ 3/4	82.5	➡ 0.0	▲ 7.5
		(TOCOM/中部)	3/4	80.5	➡ 0.0	▲ 4.2
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/4	116.6	▼ -0.2	▲ 5.7



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（2月29日～3月6日）のWTI石油先物市場は、パレスチナ・紅海情勢の緊張が続く中、軟調な米国経済指標で、続落の78.26ドルで始まったが、3月1日にはOPECプラスの自主追加減産延長観測で79.97ドルに反発、週明け4日には反落、5日は中国全人代の本年成長見通し5%前後発表への悲観論で78.15ドルまで続落、6日はFRBのパウエル議長発言で反発の79.13ドルで終わった。週を通じて、不安定ながら、70ドル台終わりの水準で推移した。

3月6日発表の1日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、原油前週比140万バレル増と6週連続の積み増しだったが、市場予想（同210万バレル増）を下回り、石油製品も、ガソリンが同450万バレル減、中間留分が同410万バレル減と、市場予想（それぞれ同160万・70万バレル減）を上回る取り崩しで、需給の好調さを示す内容だった。

EIAによると3月4日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比10.1セント高の1ガロン3.350ドル（133.5円/㍑）と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.6セント安の1ガロン4.022ドル（160.3円/㍑）と2週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、3月1日時点で、前週比3基増の506基と2週連続の増加であった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2024年2月25日～3月2日に休止したトッパー能力は25.0万バレル/日で、前週に対して7.2万バレル/日減少した（全処理能力は323.0万バレル/日）。

原油処理量は276.4万klと、前週に比べ0.1万kl減少。前年に対しては16.3万klの減少。トッパー稼働率は76.9%と前週に対して横ばい、前年に対しては2.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/17.9%減、ジェット/26.7%減、灯油/50.1%増、軽油/8.6%減、A重油/7.9%減、C重油/10.6%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比0.6万kl減）。軽油の輸出は2.6万kl（前週比14.5万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は全ての油種で増加した。前年比ではガソリン、軽油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は81.4万kl（対前週1.7%増）と3週連続で増加した。

ジェット12.0万kl（対前週46.0%増）、灯油47.1万kl（対前週223.4%増）、軽油63.7万kl（対前週19.6%増）、A重油26.9万kl（対前週59.8%増）、C重油19.0万kl（対前週29.3%増）。

（単位：千KL）

	今週 (2/25 ~ 3/2)	前週 (2/18 ~ 2/24)	前週比
ガソリン	814	800	▲ 14　(2%)
ジェット燃料	120	82	▲ 38　(46%)
灯油	471	146	▲ 325　(223%)
軽油	637	533	▲ 104　(20%)
A重油	269	168	▲ 101　(60%)
C重油	190	147	▲ 43　(29%)
合　計	2,501	1,876	▲ 625　(33%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

3月2日時点の在庫は軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは162.9万kl、前週差17.4万kl減。前年に対しては1.8万kl少ない。

灯油は152.6万kl、前週差14.7万kl減。前年に対しては29.9万kl多い。

軽油は158.0万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては39.4万kl多い。

A重油は68.8万kl、前週差6.9万kl減。前年に対しては2.8万kl多い。

C重油は174.8万kl、前週差9.7万kl減。前年に対しては3.9万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (3/2)	前週 (2/24)	前週比
ガソリン	1,629	1,803	▼ -174　(-10%)
ジェット燃料	665	750	▼ -85　(-11%)
灯油	1,526	1,673	▼ -147　(-9%)
軽油	1,580	1,577	▲ 3　(0%)
A重油	688	757	▼ -69　(-9%)
C重油	1,748	1,845	▼ -97　(-5%)
合　計	7,836	8,405	▼ -569　(-6.8%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

2月27日～3月4日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいであったが、元売会社の卸価格建値は据え置かれたものと見られる。

上記コストに、補助金増額分を考慮すると、3/7～3/14の実質卸価格はわずかに値下げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

2月27日～3月4日の製品スポット市況は、2月20日～26日平均と比べ、3品の海上取引・ガソリンの陸上取引・軽油の先物取引のわずかな値上がり、ガソリンと灯油の先物取引が横ばい、灯油と軽油の陸上取引が値下がりと、まちまちな結果だった。

直近週（2/27～3/4）の陸上スポット価格平均値は、前週（2/20～2/26）比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油も0.9円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（2/27～3/4）に、前週（2/20～2/26）比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油も0.1円の値上がり、軽油も0.1円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.6円の値上がりだった。

（お知らせ（6ページ）をご参照ください。）

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(2/27 ~ 3/4)	前週　(2/20 ~ 2/26)	前週比
スポット価格	レギュラー	78.8	78.7	▲ 0.1
	灯油	80.4	80.9	▼ -0.5
	軽油	79.3	80.2	▼ -0.9

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(2/27 ~ 3/4)	前週　(2/20 ~ 2/26)	前週比
先物価格	レギュラー	81.0	81.0	➡ 0.0
	灯油	82.5	82.5	➡ 0.0
	軽油	83.0	82.4	▲ 0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値　（2/27～3/4実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.1	➡ 0.0	➡ 0.0
灯油	▼ -0.5	➡ 0.0	▼ -0.2
軽油	▼ -0.9	▲ 0.6	▼ -0.1
A重油	▼ -1.0		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

3月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の174.5円、軽油も0.2円安の154.2円、灯油は18㍑ベースで5円安の2,098円（1㍑ベースでは0.2円安の116.6円。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油は3週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが13道県、横ばいは熊本等7県、値下がりが27都府県だった。全国最安値は徳島県の167.2円、その次は宮城県の168.8円であった。他方、最高値は長崎県の185.0円。最も値上がりしたのは長崎県（同1.6円高）、最も値下がりしたのは和歌山県（同1.6円安）だった。

次回調査時（3/11）のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

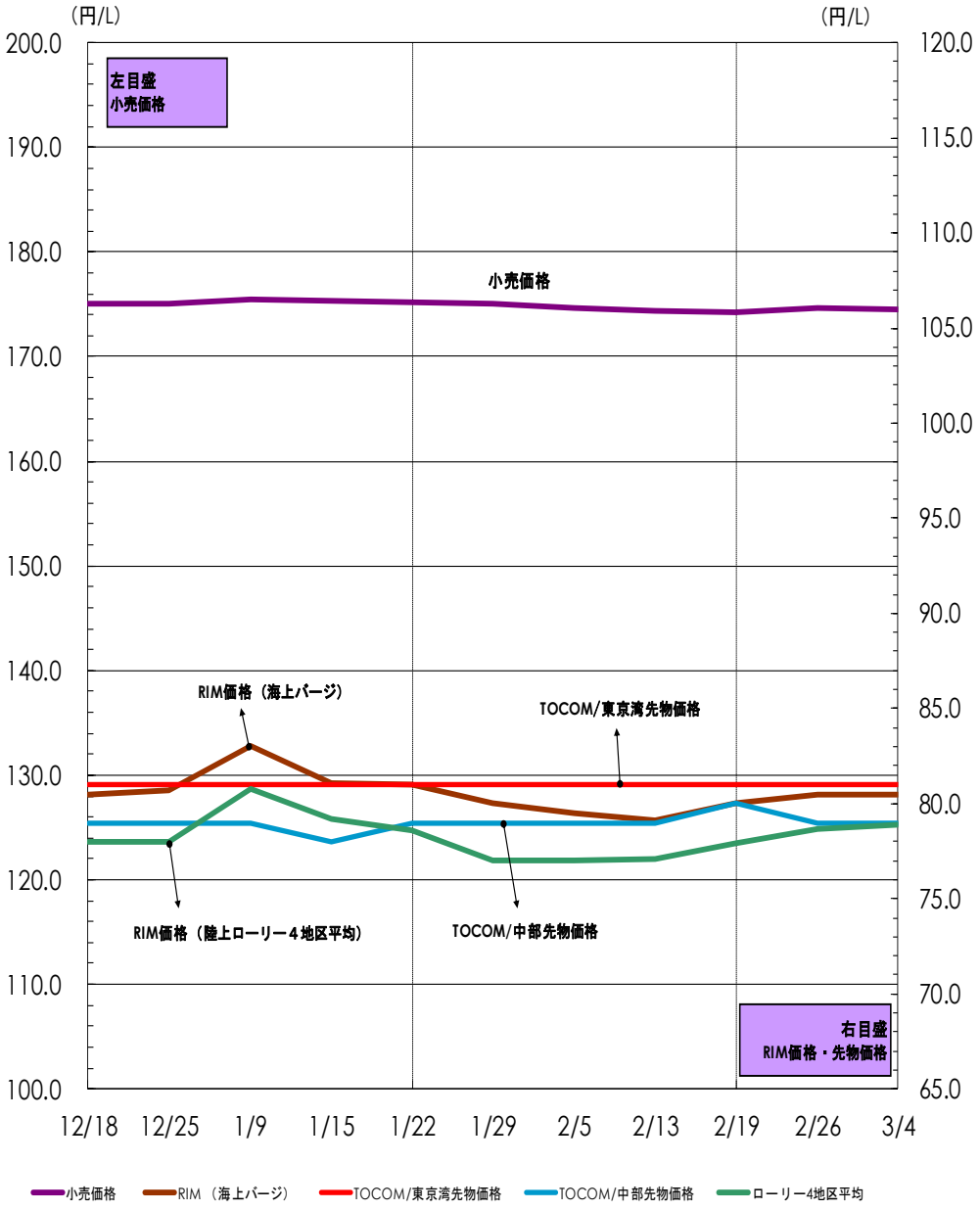
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(3/4)	前週　(2/26)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	174.5	174.7	▼ -0.2	23/9/4	186.5
	灯油	116.6	116.8	▼ -0.2	08/8/11	132.1
	軽油	154.2	154.4	▼ -0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/12/18　～　2024/3/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2023第47号）の公表は、3/15（金）14:00 です。

お知らせ

新年度、本レポート第50号（4月5日）より、紙面の改訂を予定しています。近年の石油流通の構造、石油製品の価格形成等の状況変化を踏まえ、掲載情報の入れ替え、順序の整理などを行います。特に、4ページの3（2）の「業転価格」については、表を含め、掲載を取りやめることとします。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。